

科目名	フレッシュャーズセミナー			ナンバリング	ZCF111	授業形態	演習
対象学年	1 年	開講時期	前期	科目分類	必修	単位数	2 単位
代表教員	古川勉寛	担当教員	小林大介、齋門良紀、佐藤惇史、福士勇人				

授業の概要	本学の初年次教育の一環として開講される新入生全員を対象とした必修科目である。大学生としての学修のために必要な基礎的かつ汎用的な能力を育成することを目標とする。特に履修の仕方や学修の概念を学び、高校から大学へのスムーズな転換教育を行う。また、様々なスタディ・スキルズ(ノートの取り方、講義の聴き方など)を学び、さらにアクティブ・ラーニングを通して、「聞く・話す・調べる」技法を学修する。あわせて社会で通用する良き習慣を身につける。		
到達目標	1. 予習、講義に出席、復習といった一連の過程を身につける。 2. 理学療法士の臨床業務を理解し、必要なヒューマニズムと倫理観を身につける。 3. 地域で活動するときに求められる、コミュニケーションスキルの基本を身につける。 4. 授業科目間の関係性について、他者に説明できるようにする。		
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な予備知識など)	グループ活動では、進行や記録等の役割分担を行うとともに、他者の話を聴く場面や発言する場面において他者を思いやり、円滑な活動になるよう心掛けること。また、新聞や日本理学療法士協会のホームページ等に関心をもち、理学療法士の現状を把握することを推奨する。		
ディプロマポリシーとの関連	【健康医療科学部理学療法学科のディプロマポリシー】		
	○	1	広い視野と豊かな教養に基づき、健康の維持・増進およびリハビリテーション専門職の担い手としてふさわしいヒューマニズムと倫理観を身につけている。
		2	地域に住む人々の健康・医療課題を的確に把握し、疾病や障害を予防することや、疾病や障害から生ずる身体機能および能力の回復・改善を促すことを通して、積極的に地域貢献できる能力と態度を身につけている。
		3	健康・医療に関わる課題を解決するために、理学療法の専門的な過程を用いて根拠に基づいた科学的思考が展開でき、優れた理学療法技術を駆使して日常生活活動に関わる基本動作や身体能力の維持・改善に対する支援ができる。
	○	4	健康・医療に関わる理学療法の専門家として科学と健康・医療の進展に対応するために、生涯にわたって持続可能な主体的且つ能動的な学修ができる。

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
1. 予習、講義に出席、復習といった一連の過程について、要点を説明することができる。 2. 理学療法士に必要なヒューマニズムと倫理観について説明することができる。 3. コミュニケーションスキルの基本を説明することができる。 4. 授業科目間の関係性について、説明できるようにする。	1. 予習、講義に出席、復習といった一連の過程を効果的に実践することができる。 2. 理学療法士の臨床業務を理解し、必要なヒューマニズムと倫理観について説明することができる。 3. 地域で活動するときに求められる、コミュニケーションスキルの基本を説明することができ、実践することができる。 4. 授業科目間の関係性を説明でき、関係性ある授業科目を意識した復習ができるようになる。

成績評価観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
評価方法							
定期試験(中間・期末試験)							
小テスト・授業内レポート		○					20%
宿題・授業外レポート	○	○			○		60%
授業態度・授業への参加				○			20%

課題、評価のフィードバック	各チューターが提出物にコメントを書き込み、指導を行う。
---------------	-----------------------------

授業計画	回次	テーマ	授業内容	備考
	第1回	オリエンテーション	フレッシュャーズセミナーの概要と目的等について解説し、小グループのチーム名を決定する	
	第2回	図書館の活用方法	図書の検索と図書の活用方法を学ぶ。さらに履修の仕方について学ぶ	
	第3回	講義ノートの取り方とレポートの書き方	人体の構造や運動学を例に、講義ノートの取り方やレポートの書き方を学ぶ	
	第4回	予習と復習の仕方	人体の構造や運動学を例に、予習と復習の方法を学ぶ	
	第5回	目標設定と目標管理について	個人の目標設定と目標管理の方法について学ぶ	
	第6回	理学療法士から学ぶ	現場で働く理学療法士の業務について、急性期を中心に学ぶ	
	第7回	理学療法士から学ぶ	現場で働く理学療法士の業務について、回復期を中心に学ぶ	
	第8回	理学療法士から学ぶ	現場で働く理学療法士の業務について、生活期を中心に学ぶ	
	第9回	情報収集の方法について	インターネットを利用した情報収集の方法について学ぶ	
	第10回	情報整理の方法について	情報整理の方法について学ぶ	
	第11回	書き言葉と話し言葉について	書き言葉と話し言葉の違いについて学び、文章の作成方法を考える	
	第12回	コミュニケーションスキル	コミュニケーションスキルの要点について学ぶ	
	第13回	理想とする理学療法士像について	理想とする理学療法士像を設定し、その理由について文章を用いて説明できるようにする	
	第14回	地域の理学療法士から学ぶ	地域で働く理学療法士から講話を聴く	
	第15回	理学療法士と研究活動	理学療法士における研究活動の意義と目的を学ぶ	
	第16回	理学療法士とボランティア活動	理学療法士とボランティア活動の関わりについて学ぶ	
	第17回	専任教員インタビュー1	専任教員にインタビューを行い、まとめる	
	第18回	専任教員インタビュー2	まとめ、発表する	
	第19回	カリキュラムマップについて1	各授業科目について理解を深める	
	第20回	カリキュラムマップについて2	授業科目の概要を参考に、科目間のつながりについてまとめる	
	第21回	カリキュラムマップについて3	科目間のつながりについてまとめ、発表する	
	第22回	科目間のつながりについて学ぶ1	人体の構造、人体の機能、運動学の3科目間のつながりについて、骨・関節を中心に学ぶ	
	第23回	科目間のつながりについて学ぶ2	人体の構造、人体の機能、運動学の3科目間のつながりについて、骨・関節を中心に学ぶ	

	第24回	科目間のつながりについて学ぶ3	人体の構造, 人体の機能, 運動学の3科目間のつながりについて, 呼吸器を中心に学ぶ	
	第25回	科目間のつながりについて学ぶ4	人体の構造, 人体の機能, 運動学の3科目間のつながりについて, 呼吸器を中心に学ぶ	
	第26回	科目間のつながりについて学ぶ5	人体の構造, 人体の機能, 運動学の3科目間のつながりについて, 循環器を中心に学ぶ	
	第27回	科目間のつながりについて学ぶ6	人体の構造, 人体の機能, 運動学の3科目間のつながりについて, 循環器を中心に学ぶ	
	第28回	科目間のつながりについて学ぶ7	人体の構造, 人体の機能, 運動学の3科目間のつながりについて, 中枢神経系を中心に学ぶ	
	第29回	科目間のつながりについて学ぶ8	人体の構造, 人体の機能, 運動学の3科目間のつながりについて, 中枢神経系を中心に学ぶ	
	第30回	科目間のつながりについて学ぶ9	人体の構造, 人体の機能, 運動学の3科目間のつながりについて, 末梢神経系を中心に学ぶ	
	試験	試験は実施しない		
授業の進め方		講義とグループ活動を中心に進める		
授業外学習の指示		講義中に提示される課題を中心に予習を進めることを推奨する。復習は、用語の整理を中心に進めることを推奨する。(予習60分、復習60分) (授業外学習時間: 毎週 分)		

教科書	プリントを配布する
参考書	講義内で紹介することがある
参考URLなど	特になし
その他	特になし